



## 1、はじめに

HDC会長三木次郎

### この号の内容

- 1 はじめに
- 2 令和6年度診療報酬改定のポイント
- 3 HDC講演会
- 4 日本在宅医療コンGRESS

#### 会員の皆さま

若草の候、皆様方におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。昨年度は今回の報告にもあるようにHDCの講演会が名古屋でリアルで開催されました。顔が見える形でのしばらくぶりの講演会は懇親会も含めておおいに盛り上がりました。今年度、HDC講演会は、東京でリアルで開催します。また保険改正に伴う講習会、衛生士による衛生士向けの講演会等企画しています。さらに日本在宅ケア・サミット、在宅医療推進フォーラム、日本在宅医療コンGRESSなどへの参加も予定しております。その他有用な情報提供を心がけますので、是非皆様の積極的な参加をお願いいたします。

## 2、令和6年度診療報酬改定 対応のポイント「口腔機能低下症」

HDC理事 猪原健

令和6年度診療報酬改定は、かなりの大幅改定となりました。皆さんも全体の内容を把握するのに苦労されていると思います。特にHDC会員の皆さんが普段行っている活動に関わる改定も多いので、しっかりと理解していきましょう！

#### ポイント：口腔機能低下症を極める

今回の改定の目玉は、なんと言っても「口腔機能管理」です。口腔機能低下症をしっかりと診断して、継続的に管理していく必要があります。ポイントは「検査と診断」・「管理と訓練」です。

##### ・検査と診断について

7つの下位症状について検査を行い、3項目以上該当する場合に口腔機能低下症と診断されます。議論はありますが、概ね3割程度の方が口腔機能低下症と診断されるように閾値が設定されています。ですので、実際にやってみると特に外来では、かなり空振りが多い印象があると思います。今回は、診断に至らなかったケースには「口腔機能管理中」という病名をつける、という新たなルールも加わりました。

また、検査内容に追加もありました。口腔細菌カウンターです。これまでは、口腔衛生状態不良については、舌苔の付着程度のみでした。改定後は、客観的かつ定量的な指標が、保険点数が付く形で加わります。

さらに、診断後の経過観察のための検査間隔にも変更がありました。これまで舌圧のみ3ヶ月毎の算定ができていましたが、今回は咀嚼機能検査（グミゼリー）も3ヶ月毎の算定が可能となっています。

##### ・管理と訓練について

これまでは「口腔機能管理料」という項目のみでしたが、改定後は、管理は「口腔機能管理料」、訓練は「歯科口腔リハビリテーション料3」の2つに分かれることとなります。さらに歯科衛生士が実地指導の際に機能管理を行うと加算が付くことになりました。

管理と訓練の実際については、「口腔機能低下症に関する基本的な考え方」（令和6年3月 日本歯科医学会）最後のページに記載してありますので、ぜひ参考にしてください。

口腔機能管理を行うと、クリニックに様々なメリットが生まれます。SPT算定間隔の短縮や、か強診加算、そしてエナメル質初期加算などが有名ですが、それ以外にも、PAP（舌接触補助床）やそのリハビリ（歯リハ1の2）、在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料の算定も可能になります。

今回、か強診→口管強 に施設基準が変更となりましたが、その中では、年12回以上の口腔機能管理が必要とされています。最初に取り組みを始めるのは大変ですが、クリニックの中で当たり前のように検査を行う体制を構築できれば、スタッフが自走できるようになります。ぜひ、スタッフ全員で取り組むことをお勧めします。

### 3、2023/2/23HDC講演会 名古屋 HDC理事 萩谷勲信

令和6年2月23日名古屋市ウィンクあいちで、第3回HDC講演会が開催され71名が参加者した。1～2回の講演会はコロナ禍真っ只中での開催ということもあり完全Webでの開催であったが、今回は対面式の講演会を開催することができた。

東京大学教授飯島勝矢先生・東京都健康長寿医療センター講師小原由紀先生に講師を務めていただき、フレイル・オーラルフレイルについての知見を深めることができた。参加者からは、熱のある講演で引き込まれた。とてもわかりやすかった。明日からの臨床に役に立つ。リアルで聴けてとてもよかったなどの感想が寄せられた。次回第4回HDC講演会は来年東京で開催の予定である。



### 4、2023/3/9第一回日本在宅コングレス医療 三木次郎

3/9(土)東京都千代田区で「第1回日本在宅医療コングレス」が開催。「地域包括ケア時代の在宅医療～その質を問う～」をテーマに在宅医療に従事する医療関係者を中心に216名(会場:115名、オンライン:101名)が参加。基調講演、ブロックフォーラム報告、シンポジウムの3部構成で行われました。

#### 基調講演

基調講演では、日本在宅ケアアライアンス副理事長の武田俊彦氏による「2024年の地域包括ケアと在宅医療の現在」の講演。講演では「質の高い在宅医療」について、先人の言葉をあげながら「医療というよりも人間の視点で生活者を見ること」「在宅医療は場所の概念ではなく、本人が家だと思えるところを作ること」「質の高い在宅医療の実現に向けては急ぐことなく議論していく必要姓がある」と述べられた。

#### シンポジウム

第3部は多職種によるシンポジウム。歯科、薬科、看護、それぞれの視点で、多職種協働で推進し、質の高い在宅医療のあるべき姿について、座長太田秀樹氏(全国在宅療養支援医協会事務総長)のもと、三木次郎氏(全国在宅療養支援歯科診療所連絡会)、宇田和夫氏(全国薬剤師・在宅療養支援連絡会)、河西真理子氏(日本訪問看護財団)にて意見交換を行った。

三木次郎氏からは、歯科医の視点にて、2040年にかけて歯科医師の高齢化や偏在等により、在宅歯科診療では大きな環境変化が発生し、新たな仕組みづくりの必要性が述べられた。

宇田和夫氏からは、訪問服薬指導は年々増加し、今後も在宅医療への参画が拡大するなか、薬剤師の専門性に加え、チームの一員として在宅医療に携わるマインドの必要性について述べられた。

また、看護の視点では、河西真理子氏が実際に経験された事例をもとに、質の高い訪問看護を目指すにあたって、療養者に寄り添い、医療、介護、生活の視点を持ちかつチームマネジメントができる人材の育成の重要性について説明された。





一般社団法人

全国在宅療養支援歯科診療所連絡会

〒343-0807埼玉県越谷市赤山町 4-13-23 中里歯科医院内連絡会サポートセンター

TEL:048-979-5777

FAX:048-979-5770

Mail:[doctorlink@nifty.com](mailto:doctorlink@nifty.com) または [doctorlink3@gmail.com](mailto:doctorlink3@gmail.com)